



自己紹介

- 東プロの中村直文です
- 自社の半導体事業部で、プロセス改善を推進しています
- マネージャーをやっています
- 改善対象は、ソフト開発、ハード開発、商品企画、顧客向けマニュアル等なんでも

地方のSEPGの悩み(想像)

- a. 地方企業では、大企業のように制度化されたSEPGやSQAの体制はない。
- b. 事業部では本社サイドの意向や標準に左右され自由な改善活動が制限されている。
- c. 少人数でSEPGとSQAを兼任したり、開発と兼任したり、二、三足のわらじでプロセス改善を推進している。
- d. 悩みは多いが、相談する相手がいないしそれを発信する機会がない。
- e. かといって、中央(SPI、SQiPなど)に行って発表するほどの勇氣は持てない。

地方に住むアイドル志望の女の子の悩み (想像)

- a. 地方には、大きな芸能プロダクションはないし。
- b. ローカルのプロダクションだと、こき使われそう。
- c. できれば、勉強や部活も両立させたいな。
- d. 自分の悩みを相談できる相手が近くにいたらいいのに。
- e. でも、東京に行ってAKBのオーディションを受けるほどの勇氣はないし。大好きな地元を離れたくない。

SPI Japan2012資料

3

SKE48

SPI Japan2012資料

4

東プロ



SPI Japan2012資料

5

東プロのユニークなところ

1. 距離的に近い
 - 懇親会付きで日帰りが可能
 - 開催日以外でも気軽にお会いすることができる
 2. 会場は持ち回りである ★
 - 幹事会社は、組織を挙げて主体的に参画
 - 各社は幹事会社の文化に触れることができる
 3. 業務として参加している
 - 参加前・後に社内(上司)への説明責任が発生する
 - 成果が求められる
 4. 事務局やリーダーを置かず、ルールがない ★
 - そこそこ感(そこそこの運営、頻度、資料、有名人)
 - 事例のナマナマしさ
- (★:SKE48よりもユニークなところ)

SPI Japan2012資料

6

私にとっての成果

～マネージャー目線～

1. 自社SEPGへ新たな動機付けができた
→まずは東プロ【SKE48劇場】にデビュー
2. 自社の活動事例を気に入っていただき、SPIへ発表するきっかけをいただけた。
→SPI Japan 2011【AKB総選挙】へ
3. 他社の方からの反応を社内へフィードバックすることでより社内の改善活動が活性化した。
→新たな動機付けに

SPI Japan2012資料

7

他の地域コミュニティをご紹介します

- ・TEF北海道 ソフトウェアテスト勉強会
- ・沖縄ソフトウェアプロセス改善コミュニティ

SPI Japan2012資料

8

TEF北海道 ソフトウェアテスト勉強会のご紹介

- 発足の経緯
 - 2006年に札幌でソフトウェアテストシンポジウムを初開催。その際にシンポジウム運営に関係するメンバーとJSTQBテスト技術者資格にチャレンジするプロジェクトを立ち上げた。
- 目的
 - 北海道のやる気のあるIT技術者を主な対象としてテストや開発の基礎～高度な技術・ノウハウなどを体得して自分たちの業務成果と自分たちの位置づけを向上させよう、その結果地域が元気になることを目指しています。
- メンバー構成
 - 現在10名超えの登録メンバーがいます。常時活動しているのは3～5名程度。Sier・エンブラ・組み込み、テスト専門会社等のモノ好きが集まった
- 活動内容
 - テスト、開発関連技術の研究や実践が主な内容です。必要な題材(例:テスト対象となる仕様書)も自ら構築して取り組んでいるのが特徴だと思います
 - 事例投稿、地元や各地域イベントでのワークショップ・SIG 運営など
 - テストに関する勉強会、ソフトウェアテストに関するワークショップ、要求仕様の勉強に関する分科会、JSTQB試験の勉強会、スーパカレーメソッドの研究
- 成果
 - JaSST東京、JaSST北海道にて成果発表
 - JaSST北海道にて、勉強の成果をもとにしたワークショップ開催

SPI Japan2012資料

9

TEF北海道の方にヒアリングさせていただきました ーOさんー

- 気づきや嬉しかったことは？
 - 数えきれないほどありました。自分の知識が広がったのと、いろいろと相談できる人が増えたこと。出会いが広がったこと。
- どのように活動を維持していますか？
 - 定期的に集合するようにしていること。
 - メーリングリストで、気になるネタを投入すること。
- 維持していくためのモチベーションは？
 - やる気

SPI Japan2012資料

10

TEF北海道の方にヒアリングさせていただきました —Aさん—

- 気づきや嬉しかったことは？
 - 自分にはない、あるいは気づかなかった考え方や実践事例が融合して新しい考え方やノウハウに変わっていく。
 - それが全国的に知られていろいろなオファーや引き合いが来るのが楽しいです。
- どのように活動を維持していますか？
 - 研究・実践成果をJaSST北海道のセッションとして出さなければならぬ境遇を活用して継続的に活動しています。
 - ここ数年は積極的に国内各地域に出向いてセッションを運営したり、情報交換するように活動しています。
- 維持していくためのモチベーションは？
 - 基本的にワイワイ騒ぐのが好きなメンバーが多いのと、同じ境遇を打破する高い志の同志がいる

SPI Japan2012資料

11

沖縄ソフトウェアプロセス改善コミュニティ のご紹介

- 発足の経緯
 - 沖縄県内のソフトウェア技術者の交流(2010年8月26日発足)
- 目的
 - 沖縄県でソフトウェアプロセスの改善に取り組む人、興味を持つ人たちの、会社の壁を超えた交流
 - ソフトウェアプロセスの改善や評価に関する情報共有
- メンバー構成
 - 沖縄県内の5社、約20名でスタート
- 活動内容
 - CMMI レベル4改善事例紹介、質疑応答、メーリングリスト
- 現在の状況
 - 2012年:CMMIレベル3以上の企業数社を中心に情報交換

SPI Japan2012資料

12

地域コミュニティへの期待 ～札幌より～

	A氏(一部O氏)
地域コミュニティが必要な理由	国内メーカーやベンダーの業務なども最終的には各地域のIT組織が下で支えている構図になっています。(多段階下請負構造) 受け身な会社が多いのが実態ですが、それを打開しながら <u>自分たちの力をつけて</u> 独自にプライマリーな業務や事業を出していけるくらいの組織が増えないと <u>日本</u> 自体もよくなりませんと思っています。
どのようなコミュニティが必要か？	「ソフトウェア品質」に関するコミュニティだけではなく、プロジェクトマネジメントなど実務をよりよく運営するための <u>ノウハウを蓄積して実践につなげる</u> ようなものが必要だと思います。
どのようなことを話し合ってみたいか？	もうやっているのに特に新しいものはありません。
本セッションへのご意見	良い企画だと思います。そしてその場限りで終わるのではなく、 <u>地域間交流</u> を盛んにする、継続して盛り上がるような成果につなげられるようにしていきたいですね。(A氏) 北海道では、なかなかメンバーが集まらないので、他の地域の方の <u>現状と、極意</u> を教えてください。(O氏)

SPI Japan2012資料

13

地域コミュニティへの期待 ～福岡より～

	N氏
地域コミュニティが必要な理由	参加したことがありませんので、地域コミュニティの実状はわかりませんが、その <u>地域独特の問題や課題を共有</u> することができ解決に役立つのではと考えます。
どのようなコミュニティが必要か？	<u>気軽に話し合える「場」。</u>
どのようなことを話し合ってみたいか？	今の業務でいくとプロセス改善や業務改善の取組み例などです。
本セッションへのご意見	私自身、地域コミュニティという発想は中村さんからのメールを頂くまで全くありませんでした。ですので地域コミュニティの活動内容や価値や意義についてお聞きすることができることを期待しています。

SPI Japan2012資料

14